

分析項目		検証		教育学部	教育学研究科	地域科学部	地域科学研究科	医学系研究科・医学部					工学部	工学研究科	応用生物科学部	社会システム経営学環	自然科学技術研究科	共同獣医学研究科	連合農学研究科	連合創薬医療情報研究科	全学共通教育		
番号	内容	番号	内容					医学科	医科学専攻	医療者教育学専攻	看護学科	看護学専攻											
6-4-2 6-4-3 6-4-4	各科目の授業期間が10週又は15週にわたるものとなっていること。なお、10週又は15週と異なる授業期間を設定する場合は、教育上の必要があり、10週又は15週を期間として授業を行う場合と同等以上の十分な教育効果をあげていること 適切な授業形態、学習指導法が採用され、授業の方法及び内容が学生に対して明示されていること 教育上主要と認める授業科目は、原則として専任の教授・准教授が担当していること	検証1	教員一人当たりの平均コマ数や卒業研究における学生教員比率などを確認しましたか？ ○:はい ×:いいえ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		検証2	卒業研究に係る成績評価の体制が整っており、成績評価が適正に行われていることを組織的に確認していますか？ ○:はい ×:いいえ	○								○			○	○							
6-4-5	専門職大学院においては、履修登録の上限設定の制度(CAP制度)を設けていること	検証1	履修登録の上限設定の制度(CAP制度)を設けていますか？ ○:はい ×:いいえ		○																		
6-4-6	大学院において教育方法の特例(大学院設置基準第14条)の取組として夜間その他特定の時間又は期間に授業を行っている場合は、法令に則した実施方法となっていること	検証1	大学院において教育方法の特例(大学院設置基準第14条)の取組として夜間その他特定の時間又は期間に授業を行っている場合は、法令に則した実施方法となっていますか？ ○:はい(該当無含む) ×:いいえ		○		○			○		○				○	○	○	○	○	○		
6-4-8	教職大学院を設置している場合は、連携協力校を確保していること	検証1	連携協力校を確保していますか？ ○:はい ×:いいえ		○																		
6-5-1	学生のニーズに応え得る履修指導の体制を組織として整備し、指導、助言が行われていること	検証1	学生のニーズに即した適切な履修指導や学習相談(ガイダンス、担任制、学修成果の組織的な把握と対応、学修計画の指導、オフィスアワーの設定、能力別クラス分け、基礎学力不足の学生に対する指導・助言など)を行っていますか？ ○:はい ×:いいえ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
6-5-2	学生のニーズに応え得る学習相談の体制を整備し、助言、支援が行われていること			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
6-5-3	社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組を実施していること	別紙様式	社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組を実施していますか？ ○:はい ×:いいえ -:学生が社会人等のため未実施等	○	○	○	○	○	-	-	○	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
6-6-1	成績評価基準を学位授与方針及び教育課程方針に則して定められている学習成果の評価の方針と整合性をもって、組織として策定していること	検証1	学部研究科の成績評価基準を点検しましたか？ ○:はい ×:いいえ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		検証2	学部研究科の成績評価基準が、「岐阜大学成績評価基準」及び「岐阜大学シラバス作成ガイドライン」で定めた基準と対応していますか？ ○:はい ×:いいえ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
6-6-2	成績評価基準を学生に周知していること	検証1	成績評価基準を、学生に対して、刊行物の配布・ウェブサイトへの掲載等の方法により周知していますか？ ○:はい ×:いいえ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
6-6-4	成績に対する異議申立て制度を組織的に設けていること	検証1	成績に関する異議を受け付ける窓口が教員のみでなく、受付後の対応の手順、様式等について整備されていますか？ ○:はい ×:いいえ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		検証2	異議申立てに対し、教員組織が対応を行っていますか？ ○:はい ×:いいえ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		検証3	申立ての内容及びその対応、申立ての件数等について確認しましたか？ ○:はい ×:いいえ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		検証4	成績評価の根拠となる資料(答案、レポート、出席記録等)が、検証できる状況にありますか？ ○:はい ×:いいえ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
6-7-1	大学等の目的及び学位授与方針に則して、卒業又は修了の要件(以下「卒業(修了)要件」という。)を組織的に策定していること	検証1	学則に定められている学科又は課程ごとに卒業要件を学部規程で策定していますか？ ○:はい ×:いいえ	○				○				○		○	○								
		検証2	学則に定められている専攻ごとに修了要件を研究科規程で策定していますか？ ○:はい ×:いいえ		○		○			○	○						○	○	○	○	○		

<特記事項>

番号	部局名	記載事項
1-2-2	工学部	新規採用教員において新任の女性教員に研究支援を行っている
6-2-2	連合農学研究科	令和6年度第11回連合農学研究科代議員会(令和6年12月17日開催)にて、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーの変更を諮り承認された。令和7年4月入学生より適用。
6-3-1	自然科学技術研究科	大学院においては個々の専門性を高める教育に重点を置いているため、学部のように専攻や領域単位での教育に関する体系をカリキュラムマップの形で示すことは困難である。しかし、どの科目が本専攻共通の科目か、より専門的な科目はどの科目かが理解できるように、各授業は科目区分で分けている。また、学生に配布している"履修案内"には、専攻毎の科目区分ごとに授業科目が明示されているとともに、単位表や修了に必要な単位数を明示し、履修する学生に教育課程の編成が理解できるようにしている。
6-4-2 6-4-3 6-4-4	教育学部	教学委員会や教育改善室会議にて成績評価分布等を確認している。
	地域科学部	一人8コマの担当を基準としているので、学部構成員の不足により、平均を超えることがある。
	看護学科	複数名で、授業を担当するため担当コマ数が多くなっている。実習は基礎実習は2クール、領域実習は8クールあり、B8-1、2のとおり別で確認している。
	工学部 工学研究科 自然科学技術研究科	教員一人あたりのコマ数の設定は行っていない。 学生教員比の設定は行っていない。
	連合農学研究科	博士課程学生を担当する教員にのみ授業負担が生じるため、年度によって負担はかなり異なる。
6-5-1 6-5-2	教育学部	【教職志向を維持させ続ける学生支援について】 ・教育実習から教員採用試験までの一貫した学生支援を行う学部組織(校長経験者で構成される教職サポート室や学部(全講座)の教員からなる教職サポート委員会)のもと、県内各教育事務所及び市町村教育委員会と連絡体制を構築し、 ①教員採用試験二次試験の合格発表直前(8月)に臨時的任用職員(常勤講師)登録制度についての説明会を実施している。 ②教員採用試験後(一次試験合格発表後の7月、二次試験合格発表後の8月)に合格しなかった全学生に対して臨時的任用職員(常勤講師)に関する個別指導・面談を実施し、県内各教育事務所、市町村教育委員会と連絡を密にとり、積極的に登録を促している。
	応用生物科学部	・学生からの要望による履修指導や学習相談には教員(1~3年生はクラス担任、4年生以降は指導教員、又は教学委員)や学務係がその都度応じている。また、面談による修学指導が必要な事柄に関しては複数人にて協議・立ち合いのもと行っている。オフィスアワーについては一覧を作成し、学部内掲示板および学務情報システム(WEB)にて学生に周知している。 ・授業担当教員や指導教員が学生の履修状況(欠席・課題の提出状況)について「学修支援チェックシート」を作成し、教学委員(教学委員から各課程・学科にて教員間にて共有)・学務係にて共有し、学生指導を行っている。年度末にはこれらをデータベース化し、学生の相談件数・内容を共有している。
	連合創薬医療情報研究科	4月および10月にガイダンスを行い、希望者には教務厚生委員長による個別面談を実施している。また、希望者には随時、個別面談を実施している。
6-6-2 6-7-1 6-7-3 6-7-4	医学部医学科	授業案内(電子版をwebで公開)への掲載、新入生ガイダンスでの説明。
	共同獣医学研究科	入学時に配布する学生便覧に明記している。便覧はTACTにも掲載し、常時閲覧可能な状態にしている。
6-8-5	教育学部	毎年、9月に小学校教育実習、11月に中学校教育実習を行っているが、実習校を訪問した際、実習校に現職として務めている卒業後1~3年経過した者の勤務の様子について、校長等学校管理職にヒアリングを行っている。
	応用生物科学部	本学部における4月開催の公務員フェア及び3月開催の民間企業展において、官公庁・団体、民間企業における本学学生に関するアンケートを実施している。
	連合農学研究科	本研究科設置のインダストリー一部会において、関連企業から意見を聴取する仕組みを有している。留学生に関しては教育コンソーシアムIC-GU12を通じて意見を聴取する仕組みを有している。